

・ 今回は新しいメンバーとの関わり方と野生ポストジャッジについて時間を取って話をした。今年入って来た新メンバーに限らず、今後新しいメンバーが入って来た時に起こる問題だと思うので、今回話し合いができて良かった。議題を提案してくれたメンバーのAさんありがとうございました。

大体私とメンバーAさんは「そういう捉え方をすると思ってなかった」、Bさんは「効果的な伝え方がわからなかった」、Cさんは「見てなかった」というパターンが多く、意識して変えていこうとしなければ毎回この結論に陥ってしまう。なので、今回の話し合いを通じて、それぞれが思考停止でいる今の状態から前進できればいいなと思った。

最近陽子さんが10プロ内でスタエフの誤りなど指摘をしてくれていたが、この位言って初めて意思の疎通ができるのだということを、示してくれているように感じていた。

私自身は、前回のmtgで訓練不足という言葉にもものすごく納得感があったので、関わりの回数を増やしてみたものの、中途半端な関わりになってしまったが故に、反省もあった。ただ、関わってみて初めてわかったこともあって、勝手なイメージを持っていたことで、本人の可能性を狭めてしまっていたのだと自覚した。「関わらないとわからない」という当たり前の結論に気が付いた訳なのだが、こうやって理解を深めていくしかないのだと、ある種腹落ちすることもできた。

また、メンバーCさんの「周りにいないタイプなので、想定外のレンジが違う」という言葉と、陽子さんの環境の違いについての説明にも納得感があった。たしかにうちの会社にも他

人の足を引っ張ろうとしたり、意地悪なことを故意に言う人はいない。日頃社内で意思疎通にフラストレーションを感じることもあるが、あゆみさんの職場の話为例に出してもらって、それぞれメリットデメリットがあるのだということがよくわかった。

考えてることをシェアし合って、最終的に「違和感を感じたら伝えていこう」という結論になりかけた時、陽子さんから「やりたくないって人がいてもいいんだよ」という問いかけがあった。これはとても大事な問いかけだと思った。やる方向で話が進んでいたの、この状況でNOとは正直言いにくい。でも、10年プロジェクトで大事にしているのは、「やるべき」や「やった方がいい」ではなく、いつだって「やりたい」かどうかだ。NOと言いやすい雰囲気を作ることもチームとして意識したいと思った。

フィードバックコーナーでは、メンバーCさんがネガティブな感情を10年プロジェクトでは言っはいけないと思っているように感じたので、そのことをフィードバックした。みんなのモチベーションを下げってしまうかもという気持ちはよくわかる。ただ、自分と向き合うという点では、ポジティブなこともネガティブなことも本音だと思うので、それを出すことを抑えないでほしいなと思った。

Cさんから「Eさんの愚痴はポジティブなんですよ」という言葉をもらって考えていたのだが、たしかに個人ボードに書く時というのは、不満が生じた時点から、異なる視点や解釈が生まれたり、次にこうしようという気持ちが生まれた時かもしれ

ない。先行きが見えない時に、ただただ自分の内面を吐露することは、私自身できていないかもしれない。

ただ、それはコーチング練習会や個別フォローで話すことで、抜け出すきっかけをもらっているのも大きくある。それが人に話すことの効用だと思し、10年プロジェクトで出すことで糸口を探すきっかけにもなるのではないかと、mtgの後に改めて伝えたいと思った。

今回合宿前最後のmtgだったのだが、各自プランが固まって来て、いよいよ合宿なんだなあとワクワク感が増した。合宿の2日間を通して、関係がまた変化していくのが楽しみだ。

(E.M 40代女性 埼玉県)